

復命書

2014年 1月28 日

新政会 代表
望月 厚司 様

議員名 佐藤成子

下記のとおり、政務活動費による視察を実施したので、ご報告します。

1 日 時	2014年1月21日（火）～22日（水）	
2 視 察 先	(1) 都 市 名 視 察 先 施 設 等	グリーンテーブル 福島第2原発視察 南相馬市
	(2) 対 応 者	南相馬市役所・復興企画部企画課 福島第2原発内東京電力関係者
3 目 的	原発被災からの復興状況と現状を伺う。 福島第2原発の現状視察	
4 内 容	<p>(調査事項・調査結果を具体的に)</p> <p>南相馬市役所・総務企画部・復興企画部</p> <p>東日本大震災とその後『南相馬市の現況と復興に向けた課題』</p> <p>3年以上経つ被災地の状況を伺う。人口63,999人（平成26年1月1日現在）主要産業は農業で、面積の55%が山林、相馬野馬追は有名行事で、福島県の浜通りの中核都市。3・11当日は、震度6弱の地震観測。約50分後20・8mの津波到着。12日、福島第一原発発電所より半径10キロ圏内の住民に避難指示。第一原発1号機水素爆発。第一原発から20キロ住民に避難指示。14日3号機、原子炉建屋水素爆発。2号機の冷却水が不足し全燃料棒が露出。14日大きな余震。市民が混乱。15日以降全市を対象に市外避難を実施。15日から17日まで、バスで、1939人を市街避難を誘導。その後、3号機、4号機も火災等発生。18日から20日まで2,725人を、25日に142人を集団避難誘導。22日20^キ。圏内を警戒区域に設定。平成24年4月には、警戒区域・計画的避難区域</p>	

	<p>を、避難指示解除準備区域、居住制限区域・帰還困難区域と見直した。淡々とした説明だが、混乱ぶりが想像できる。この間の被害状況は、1075人死亡・内震災関連死は439人（平成25年11月20日現在）平成22年現在あった8,400haの農地、流出冠水が32・4%。原発事故による水田作付面積の制限は（30k圏内）平成23年産米は市内全域で作付制限。24年25年も除染の遅れから作付を見合わせている。平成25年11月現在は、人口の市外避難者は44%で、なかなか市民帰還が進まない状況。生産年齢人口の減少が顕著。</p> <p>対策は⇒除染 線量の高い地域から順に実施。除染効果、49・1%下がっている。この間仮置き場などの地域間の揉め事などもあった。一方、雇用の問題などは、事業所数従業員ともに16%減少⇒事業所再開・産業再生・産業復興の取り組み。（グループ補助金・国県の立地補助金による支援・作業員向け住宅施設建設補助金創設・長期避難者向け公営住宅の整備・工業団地を整備・南相馬市ロボット産業協議会を設置）また交通インフラと工業団地の整備。土地利用計画を策定などを進めている。</p> <p>今後の課題</p> <p>※除染対策事業交付金の対象拡大 ※除染作業員の労働単価および特殊勤務手当の見直し ※除染後の最終処分場の確保 ※賠償の充分期間都継続 ※教育環境の充実 ※国の責任で、企業誘致 ※医療提供体制の人的支援の延長 ※復興再生特別措置法の拡充と支援充実</p> <p>福島第二原子力発電所視察</p> <p>22日の福島原子力発電所第2号機の視察は、厳しいチェックを重ねて実現できた。すぐお隣で起きた事故の説明も加えていただきながら視察できた。浜岡原発を視察しているが、そんなに変わりがあるものではなかったが、事故が起きた後なので、より詳しく見入ってきた。</p>
<p>5 成果・市政への反映等</p>	<p>“心ひとつに・世界に誇る・南相馬の復興を”のスローガンで、頑張っている様子が伝わってきた。避難指示が出されて、動いた市民たち。それ以降、様々な思いを抱いて故郷を離れて生活されている方が多くいる。除染効果は期待できるものなのに、進まない。作業員不足や最終処分場が未定だからだ。本当に何とかしなければならないことだ。津波被災地は少しずつだが、高台移転などで、復興の姿が見えるが、原発被災地は、ゴーストタウンの地域がまだまだあり、悲しい現実を見せつけられた。浜岡を抱える静岡でも、他人事とは言えないのではないかと思いつつながら、通行許可証で、バスで入った南相馬から第二原発までの地域を通過しながら思ったことだった。日本中の原発は今止まっている。日本のエネルギー政策は、再稼働の方向を提示しているが、これだけの結果が出ているのに、の思いだ。</p>